

大阪府まちづくり実行委員会 活動報告

報告日 2005年 11月 18日(金)

報告者 労組名 ライフ労働組合 氏名 田岡 庸次郎

開催日 2005年9月11日(日)

開催場所 大阪府 千里公民館4階

参加者 阪急百貨店労組 大嶋さん、コープこうべ労組 小林さん、ライフ労組 田岡

内容

～サステナブル・コミュニティー・フォーラム 2005 IN 千里への参加～

講演：植田 和弘氏(京都大学教授)『持続可能な(サステナブル)まちづくりについて』
パネルディスカッション： テーマ『持続可能な地域をどのようにつくるか 参画と協働の仕組み作り』 パネリスト：久隆浩氏(近畿大学教授) 青山崇氏(岐阜県多治見市職員)
秋田光彦氏(浄土宗應典院主幹) 谷川一ニ氏(千里市民フォーラム代表)

『まちづくりフォトアルバム』

写真提供：特定非営利活動法人NPO政策研究所



【講演】

サステナブル...持続可能な発展。

環境的にも、社会的にも、経済的にも持続可能なまちづくりの基盤を作ることが必要。市民の主体的活動が前提。まちづくりに関わる時間を作る。労働時間と生活時間を区別する。市民の生活の質を持続的に高める。

【パネルディスカッション】

- ・都市のまちづくりに必要なもの 人と人をつなぐ、街と街をつなぐ、活性化するための誇り、気付き、稼ぐことが必要。
- ・行政の考え - 住民の望み 企業が存在大学(理論)を一体化させる。
- ・地域固有の資源の再利用。
- ・多様な学習機会の提供と創出
- ・シナリオプランニングの必要性



まとめ・感想

植田氏の講演の中で、『<街>が、いかに持続した発展を遂げるかは、住民の主体的活動が前提である。そうは言うものの、頑張る住民がいたら何でも出来ると言うのは嘘であり、持続した発展を遂げるには必ず制度・仕組みが必要になる。制度・仕組みを作るときには行政や産業といった基盤の存在が必要である。』と言うお話しがありました。この話を聞き、労働組合のまちづくりへの関わり方として、以下のような感想を持ちました。まず、企業に対して、その企業が存在する街の住民や行政に対し前向きに、積極的に関わること、また、従業員がまちづくりに関わる時間を作るために、十分な生活時間を確保させることを提言する。一方、組合員に対して、生活者としてその街で暮らすことに誇りを持ち、住み続けたいと思うようにするためには、自身が暮らす街の現状を知り、課題・問題に気付き、より良くするために自ら考え、行動することの必要性を啓蒙する。以上のように、企業と組合員、双方への働きかけが必要であると感想を抱きました。 次回開催日 2005年12月10日(土)

次回開催内容 通常会議+NPO 法人 DANCE BOX 代表大谷氏より、活動内容を講演頂く。